



ようやく
大人しくなったね…
手間取らせないでよね
お姉さん
忙しいんだから♡

大学に入り
一人暮らしを始めた僕。
しかし、のっけから
想像もしなかった
ピンチに陥っていた。

のっけ♡

ぎゅっ♡

フードデリバリーの
クーポンが郵便に入っていて
電話をかけてみたら
やってきた
配達のお姉さんに
急に部屋に入り込まれた。

おまけに
僕のズボンを脱がし、
汗まみれのお尻で
僕に
のしかかってきたのだ……!

君大学生？
全然見えな～い
中学生ぐらいに
見えるよお

腕力も
よわ～い♡

く
……
……

むわっ♡



ほむっ
ほむっ
♡

あ...あああ...

♡
♡
♡
♡
♡

ごめんね君のこと
狙ってたんだよね

外暑いから
自転車漕いでたら
お尻すごい蒸れちゃった
どんな匂いするかな？♡



うふふ…わかる？
もう
濡れちゃってるんだよね…
汗と、おま〇こ汁で
ベトベトになったお尻の
感触も味わって♡

うぐっ…
ああああっ！



あはっ♡
もう出ちやったね…
今日は
ここまでかな…

あんまり
つまみ食いしたら
バシちゃうからね♡
宅配食でも
オトコの口でも♡

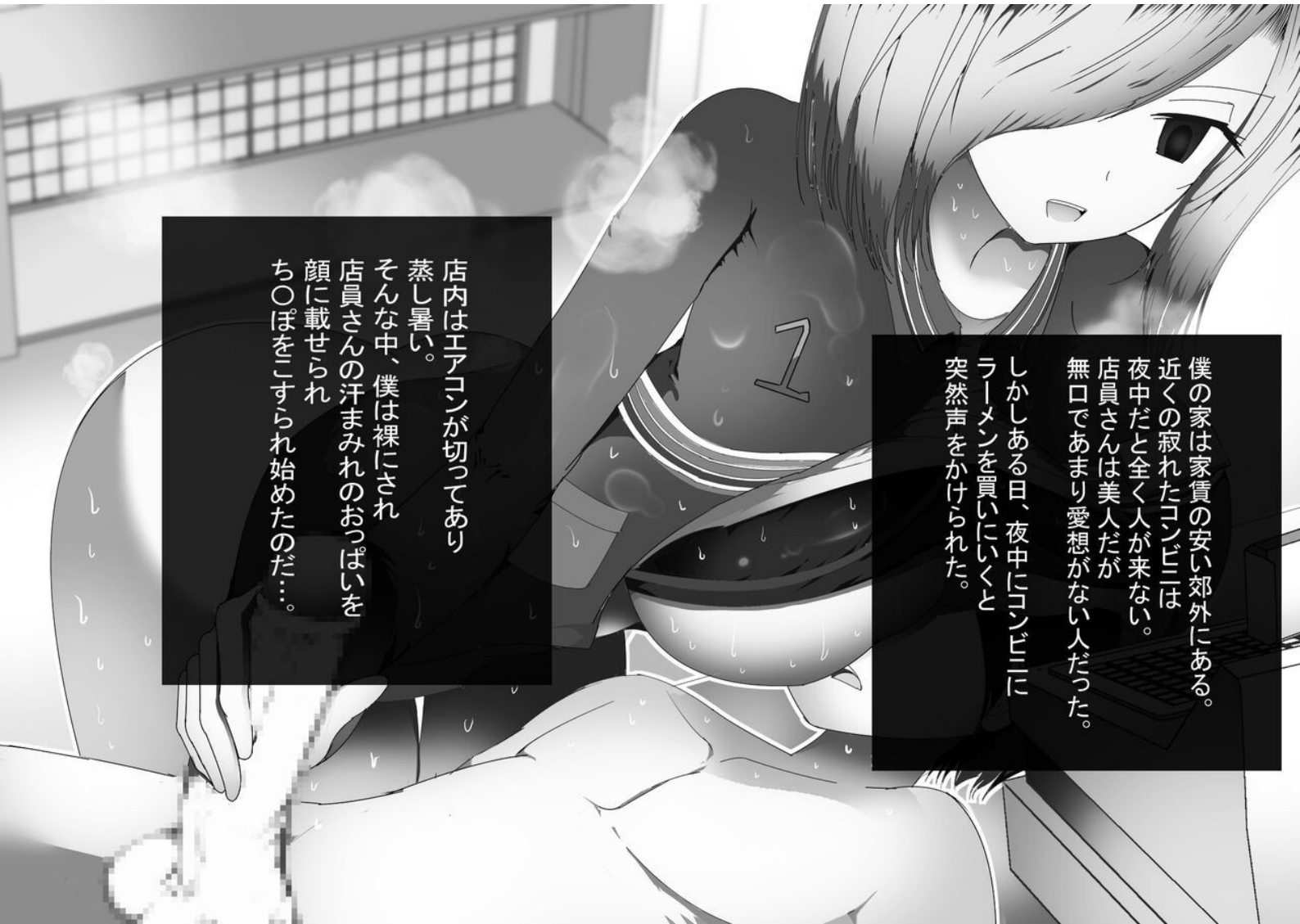
また来るから
明日も
ドア開けてね♡

どろろ…

ビビビ…

その後、偶然か…
このお姉さんの件が
街中でひそかに広まったのか…
僕は様々な場面で
刺激的な体験を
することになった…





僕の家は家賃の安い郊外にある。
近くの寂れたコンビニは
夜中だと全く人が来ない。
店員さんは美人だが
無口であまり愛想がない人だった。
しかしある日、夜中にコンビニに
ラーメンを買いにいくと
突然声をかけられた。

店内はエアコンが切っており
蒸し暑い。
そんな中、僕は裸にされ
店員さんの汗まみれのおっぱいを
顔に載せられ
ち○ぽをこすられ始めたのだ…。



…君のコト、真理から聞いたよ。
女の子の匂いが好きな変態なんだって？

ま…真理さん？
(あの宅配の人か…)
べ…別に匂いが好きなんかじゃ…

さず
さず
さず
さず
さず
さず

ムキ
ムキ♡
ギョウウ…



これなら...
どうかかな...?

アタシの...
脱ぎたてパンティ
ち○ぽに
かぶせたげる♡

!?

フアッ...♡



私の体温…
まだ残ってて
温かいでしょ？
よく
こすりつけたげるね…

ほーらほら…
汗でじっとり湿った
シミ付き
パンティが絡みついて
いくよお…

うわっ、
うわあああああ！

しゃるっ
しゃるっ
しゃるっ
しゃるっ
ぬりゅ
ぬりゅ
ぬりゅ
ぬりゅ

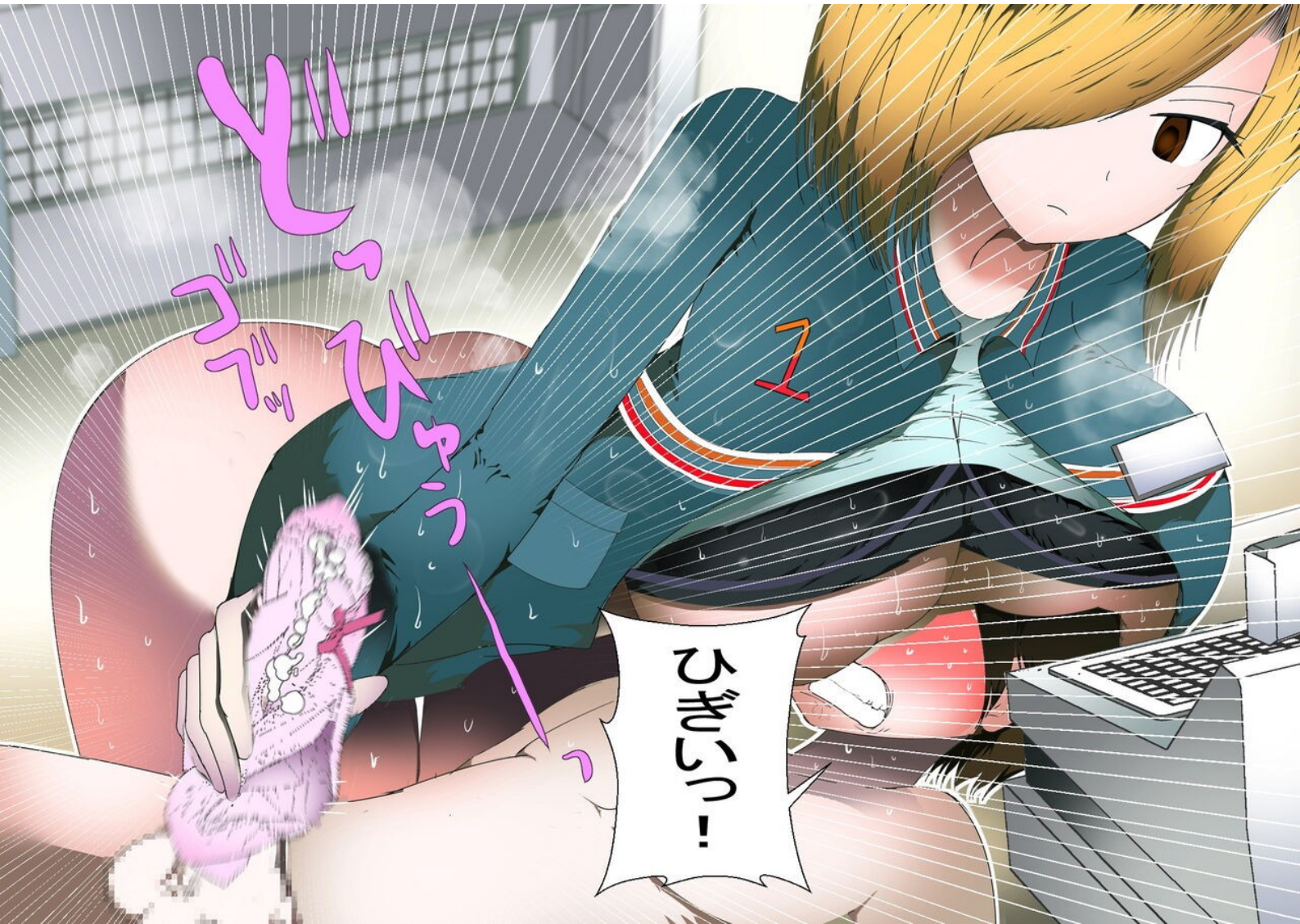


君のち○ぽと
アタシのパンティ…
すっかり同化しちゃったね♡

出したらダメだよ…
アタシのパンティ
精子で汚したら
許さないよ♡

む…無理だよおっ!!
こんなの…出るうっ!!

しゅる
にゅる
ちゅる♡





あはは…
めちやくちや出すじゃん…
ダメって言ったのに…
いけない子…♡

パンティが
ぐっちよぐちよに
なっちゃった…

バツとして
今日は
このパンティ被って
帰ってくれる??

い…
いやだ…
ゆ…許して…

ニ…
ほ…
ニ…
さ…
あ…

どろ…
ねと…



しかしまだ僕の受難は
始まったばかりだった。
工事現場近くを散歩していると
よく日に焼けた現場仕事のお姉さんが声をかけてきた。
こちらに来てと話すのだが
何か不穏なものを感じ
会釈だけしていると
強引に敷地に連れ込まれた。

見ると他に作業員の人は
いないらしい。
暑い中の作業で
ストレスが溜まっていると
そのお姉さんは
僕を脱がし、素足で僕のち○ぽを
こすりあげてきた…。



いや〜毎日こー暑いと
頭が変になっちゃうよな？

や…やめてください！
あなたは誰なんですか…！

♡…♡♡♡♡♡

く〜んやん

く〜んやん



細けーことはいいんだよ。
お前、女の香りが
好きなんだろう？
だとしたらアタシなんか
かなりメスの匂い強いよ。

足の裏は
長靴はきっぱで
ムレムレだしさ…
ちよつとそちのち〇ぽで
味わわせてやるよ

や…やめてください！
そんなこと
誰も頼んでいません！



そのわりには
物欲しそーな目で
ここ通るとき
私の体見てたじゃねーか…

匂い好きだって話は
聞いてるぜ♡
アタシの足の匂いも
鼻に届いてるだろ？

ううっ…そんな…っ
(ツンとした臭い足なのに…
なんてすべすべした感触
なんだ…)



ほーれ
しゅーしゅー

♡しゅーしゅー♡
♡しゅーしゅー♡

あっ…ぐうあっ…
ひゅ…ううあああっ…!



乳首も一緒に
責めてやるよお…
どうだ？

思いっきり
ブチまけて
いいんだぜ♡

くっ…あっ…
ふあ…っ
あっあっ…！



うあああああ
あああああああっ！




うわ…
足がすげえ
あつたかい…
うふふ…
足でしごかれて
そんなに良かったのか？

この感触…
アタシ一生覚えてる
からな？
覚悟しろよ？

そんなあ…
忘れて…
忘れてよお…

しゅろ
にちやあ



思ったとおり街中に
僕のが知られつつある…

小さな街で、女性の噂話の広まり方は
予想以上だった。

何か対策を考えないと…と思
住んでいる部屋への帰り際、
エレベーターで相乗りした女性が
急に僕に襲い掛かってきた。

彼女は同じマンションに住むOLで
僕のことをずっと以前から
狙っていたと語り、
履いていたストッキングを
僕にかぶせて裸になり
またがってきた…!!



ふふ…
こんばんは。
同じ階に住んでる
有紀子といいます。
あなたといつかじっくり
お話したいと
思っていました…

こ…これがお話だつて
いうんですか!?!?
このストッキング
取ってください!!

ムフマ…♡

クチュ♡

クチ

言葉など要りません…
張り紙をはがしましたが
このエレベーターは
点検中で上下に
動かない状態です

ドアはあなたが
来る前に私が
こっそり
こじ開けたんですよ…

さあ…ストッキングに
しみついた私の匂いを
嗅いで…
そのまま
ひとつになりましょう

ちよっ…まって…
ぼ、ぼくは初めて…
ああっ!!

フプフプ…♡

ズグズグ





ほら…入った…♡

~~~~~  
!!

ズ  
ホ  
カ…♡

フ  
フ…



ふふ♡  
童貞だったんですか？  
残念…  
私が  
いただいちゃいました…♡

どうですか…  
私の何日も  
替えずにいたパンストと…  
おま〇この感想は…♡

(あ…あ…  
あったかくて…  
ぬるぬるしてる…  
そして  
脳に直接響くような匂い…)






ふふ…すごい量ですね…  
溢れちゃう…  
こんなの一発で  
妊娠しちゃいます♡

匂い嗅ぎながら  
女の子孕ませるのって  
どんな感じですか？  
変態さん♡

えっそんな…  
ほ、僕はそんなつもりじゃ…  
い…いやだ…  
責任取れないよ…おっ

ハァ…♡  
ゴホ…オホ  
ゴホ…  
ぬち…♡





思いがけない形で  
童貞を失ってしまい、  
僕はシヨックを受けた。  
休日にふらふらと  
街をさまよひ、  
喫茶店に入る。

しかしそこは  
一般的な看板だったが  
メイド喫茶の一種らしかった。  
コーヒーを頼むと、  
メイド服を来た女の子が  
なんとテーブルの下に  
もぐりこんで  
僕のズボンを脱がせた……！

今日は来てくださって  
ありがとうございます…  
ご主人様

だいぶおチンカスが  
溜まってらっしゃいますね…  
そして、  
このそそり立ち具合…  
お精子も  
溜まってらっしゃるみたいです…

こ…こ…は  
何の  
お店なんですか!?  
や…  
やめてください!

ふん  
…ん



わらひに...  
まかせてくらはい...

ちゅるっ...

すっちゅっ...  
♡

そ...そんな...  
口で...







んん…

ん…♡

う…  
はげし…っ

んんっ

ん…

すしゅちゅね  
ちゅっ  
ほっ  
ほっ  
ちゅっ  
ほっ  
ほっ





..ジュジュジュ  
ジュジュジュ

!



おっお…  
(の…飲まれてるう…っ)

恐る恐る、  
僕はテーブルの下を  
のぞきこんだ…  
すると…



げほっ…  
げほっ…  
!

びん

あま  
あま  
あま

びん  
びん  
びん

!!

すみません…  
ほとんどは  
飲みましたが  
むせちゃって…

ご自分の匂いを  
たっぷり嗅いで  
くださいね…♡

もわぁ

にちゅ

どろ

く…臭い…


ぐちゃ

やぶ

どろ

絶対わざとだった…  
僕が匂いで責められて  
喜ぶ変態だというデマを  
この人も耳にしていたのか…





これらの一件で僕は、  
女性に対して  
抵抗もできない自分に  
嫌気がさした…  
自分が匂い好きの  
変態と思われても  
強く言い返す  
こともできないなんて…

体を鍛えて  
生まれ変わろうと思い  
近所のスポーツクラブに  
入会したものの、  
女性トレーナーに  
誘われて  
女子更衣室に  
閉じ込められた…！



勃起したね...♡  
そんなに  
この更衣室の匂いが  
気に入ったのお？

こゝんな事  
されたら  
匂いとか関係なしに  
起つに決まっています！

モワァ...

ピキキキ...



ん...

す ||  
-30-  
-30-  
...



じゅ...



この更衣室に籠った  
女性トレーナーたちの  
下着の匂い…わかる？  
このシューズもすごい  
匂いでしょ？

君にもこの香り  
染み付かせて  
あげるね♡

んん…？  
なんだかもっと  
硬くなってきたよ？  
興奮したのお？

ち…違っ…  
僕は…  
そんな…っ

ムフフ…

ムフフ♡

ムフフ…♡

ムフフ♡



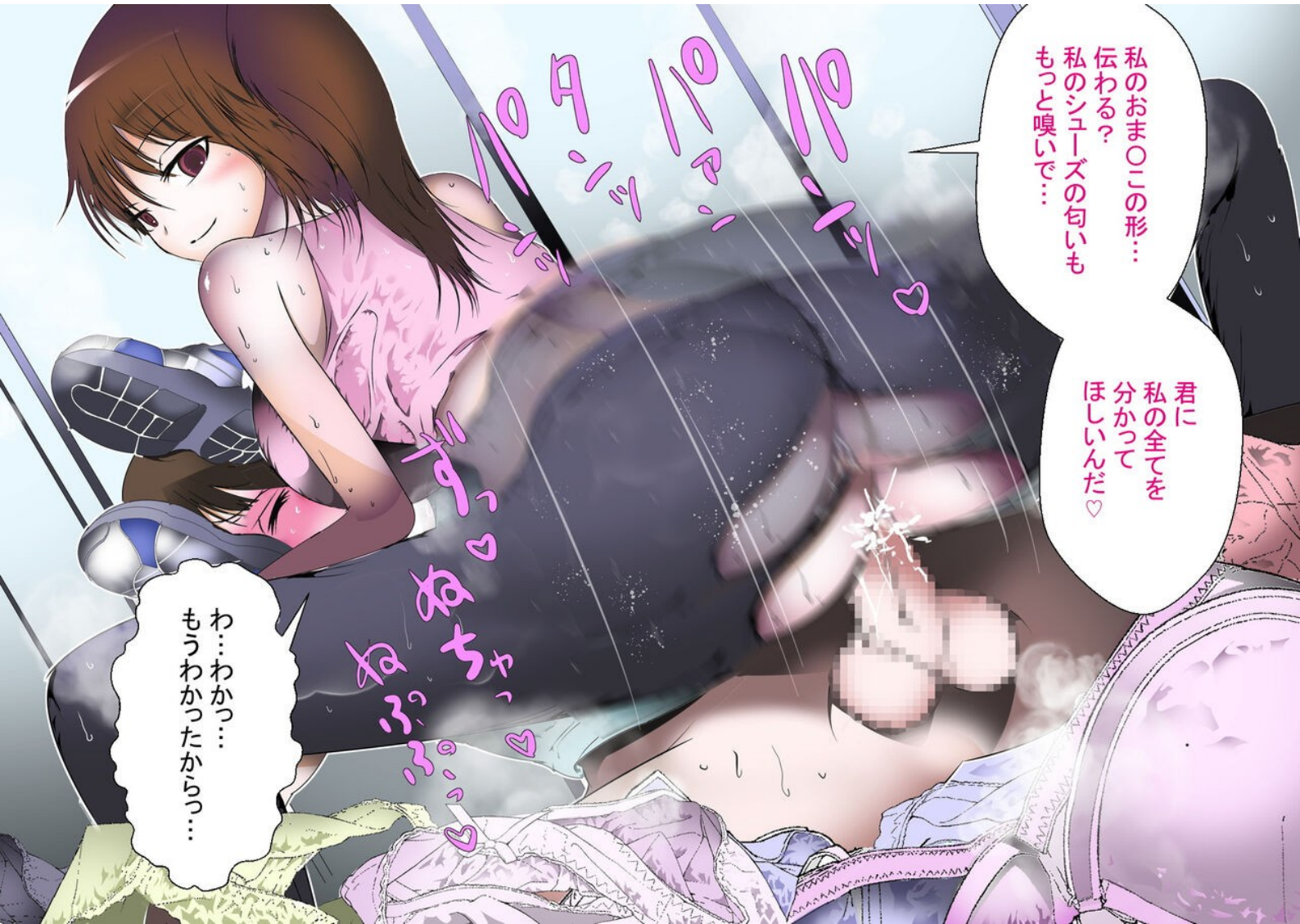
ほらほら  
動かして  
いくよぉ♡

くあっ...  
やめっ...  
ああああっ...!

アッ♡  
グッ♡

すっ♡

しゅっ♡

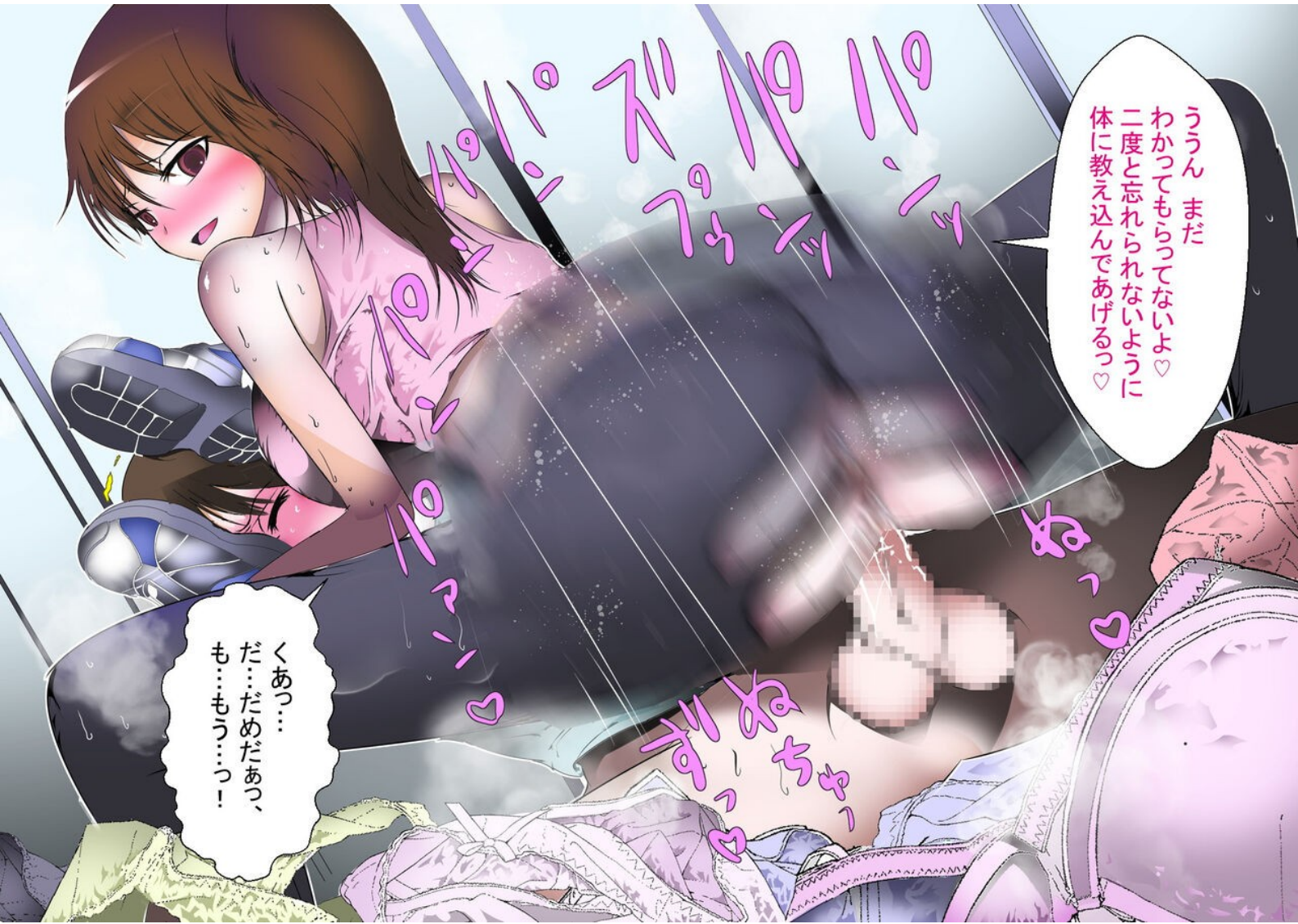


わ...わかつ...  
もうわかつたから...

私のおま〇この形...  
伝わる?  
私のシューズの匂いも  
もっと嗅いで...

君に  
私の全てを  
分かって  
ほしいんだ♡

わ...わかつ...  
もうわかつたから...



ううん まだ  
わかってもらってないよ♡  
二度と忘れられないように  
体に教え込んであげるっ♡

くあっ…  
だ…だめだあつ、  
も…もう…っ！

すいね  
ちゅっ♡



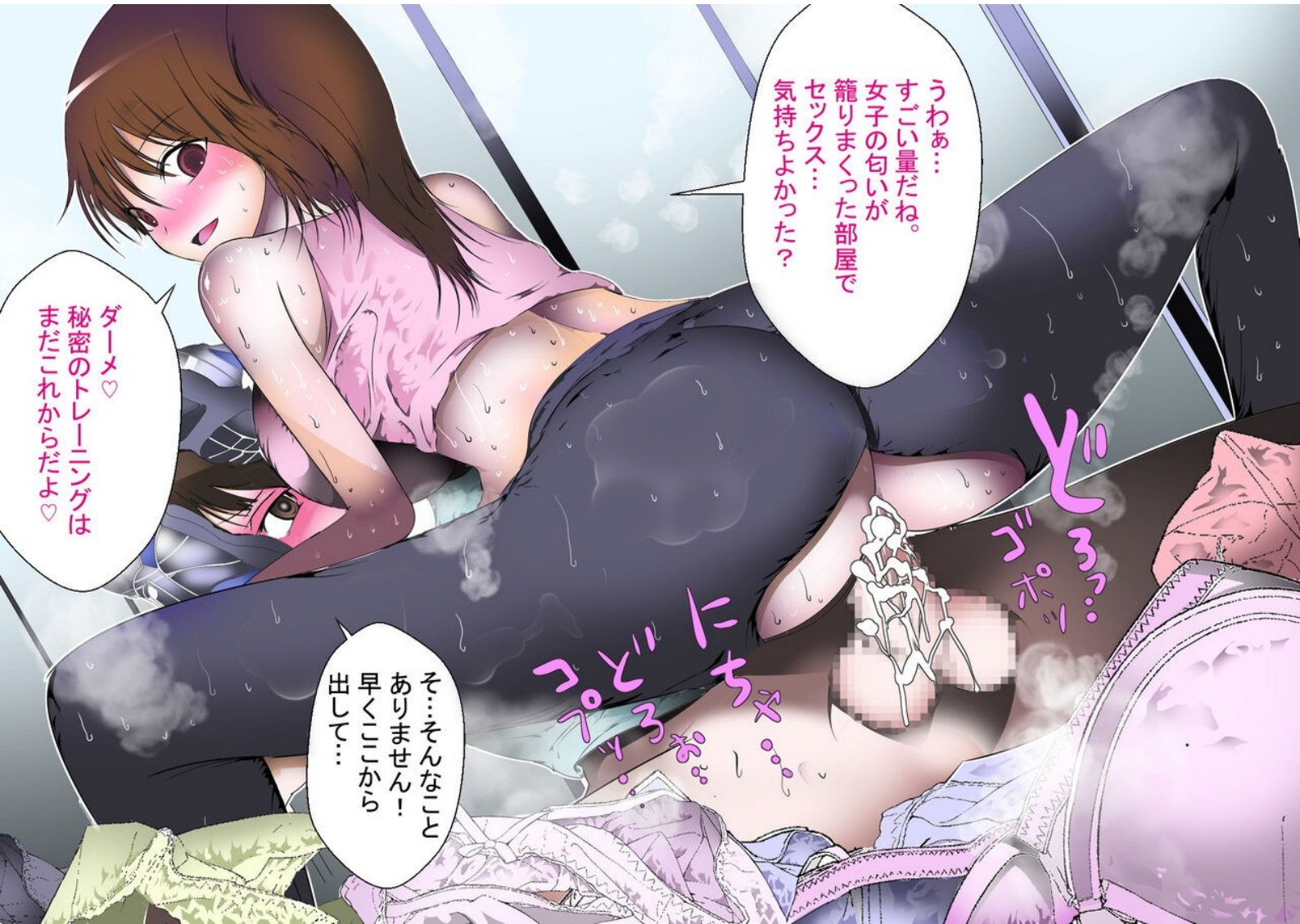
く...  
ああああっ!!

びゅんびゅん  
びゅん

びゅん

びゅん

びゅん




うわあ…  
すごい量だね。  
女子の匂いが  
籠りまくった部屋で  
セックス…  
気持ちよかった？

ダーメ♡  
秘密のトレーニングは  
まだこれからだよ♡

そ…そんなこと  
ありません！  
早くここから  
出して…

どろろ…  
ごぼり…  
つとらにちみ…  
つとらお…



またセックスまで  
こんな形で経験して  
しまった…  
僕はストレスからか  
風邪をひいたようで、  
念のため  
近所のクリニックを尋ねた。

今日は休診のようだったが  
当直の若い看護婦さんだけがいて、  
しばらくベッドで横になるよう  
薦められた…  
しかし…すぐに  
看護婦さんはその大きな  
おっぱいで僕のち○ぽを挟んできた。



お体の具合大丈夫ですか？  
私が癒して差し上げますから  
ご安心くださいね♡

ちょ…待ってくださいっ！  
こんなの…  
余計消耗します…っ！

(うっっ…)  
なんて大きさと  
柔らかさだ…)



遠慮されなくて  
いいんですよ...  
あなたのおち〇ぽには  
この治療が必要です♡

ほら...  
動かしはじめますよ♡

ひゅん...  
あぁあぁあぁっ!!



どんどん中で  
硬くなってる…♡  
それと…

どうですか？  
私のブラジャーを  
アイマスクにして  
いただきながらの  
パイズリは…

リラックス  
できますか？

あ…あああ…

3日替えずに  
私のおっぱいの匂いを  
染みつけたブラジャーです…

たっぷり嗅いで…  
私のおっぱいの感触…  
味わってください♡

あ…甘い…  
甘い香りが  
するうっ…







…んん…♡

おっお…  
し…絞られる…っ♡

キィ  
ユウユウユウユウ…♡

キィ  
キィ…♡



ほら…  
見て下さい♡  
おっぱいの中  
ぐちやぐちやです…♡  
あなたのお精子の匂いも  
こんなに漂ってますよ…♡

ねっちやめ

ぐうっ…  
な…なんて臭さだ…っ  
お…おっぱいが僕の精子で  
こんなに台無しに  
なるなんて…

にちやっ…  
ごホ…

ぐちやっ…



こんな毎日を  
送るうちに  
恐ろしいことに気付いた…  
あれほど、抵抗があった  
女の人の匂いが  
恋しくなっていたのだ…  
このままでは本当の  
変態になってしまう。

僕は、精神的にとっても疲れている…  
休養を取るべく  
貯金をはたいて観光地の旅館に  
泊ったのだが、  
その若女将にまた  
無理やり  
女性用のフンドシをかぶせられ…



うちの旅館に  
ようこそおいでやす♡  
うちの脱ぎたてフンドシを  
かぶりながら  
バックから  
突いてもらえますやろか♡

もわぁ..  
むわっ..

な...なんで  
こんなことをするん  
ですか?  
僕はこんなつもりじゃ...

ピュッ..  
ピュッ..  
ピュッ..



よう言うてからに...  
お客さんが  
廊下から  
うちの女子脱衣所の  
下着カゴを  
チラ見してたん知ってるんよ♡  
通報されたらどうするん?♡

うっ...  
そ...それは...  
で、でも...

ヒョト...



さあ…  
入れておくれやす♡

でも安心しい…  
うちは…  
お客さんみたいな人を  
待ちかねとったんよ♡  
うちのフンドシの  
匂い嗅ぎながら…

すぢゅら

くっ…  
(だめだ…  
とても体が抗えない…)



んん...  
はんんっ♡  
あんんっ...♡

(こ...この人...っ  
後ろから...っ  
自分から腰を...っ)

すっ っ っ っ っ  
ちゅっ っ っ っ っ  
すっ っ っ っ っ  
ぬっ っ っ っ っ



あはんっ、  
あんんっ、  
くああああん♡

(そ…そして…この  
フンドシから漂う匂い…  
お…おかしく  
なりそうだ…っ！)





あはは♡  
いっぱい出して  
くれはりましたなあ…  
これは妊娠間違いなしどす  
うちの旦那になって  
一生うちの下着の  
洗濯係やって  
くれはりますか？

い…いやだ…っ  
そんなっ…  
僕は…まだ…そんな…

ぐぐちゅ  
おちゅ  
どろろ  
ぬちゅ



僕は宿を変えることにした。  
少し離れたホテルに泊り  
一息をつく…  
するとルームサービスの  
マッサージのお姉さんが  
ノックしたので  
ドアを開けたとたん、  
彼女は僕を押し倒し  
布団をかぶせて  
シックスナインをはじめた…！



んん…  
んん…  
んん…

(うう…  
布団をかぶせられると  
匂いの逃げ場がない…!!  
すごいチーズ臭さだ…!!)

むわっ…  
もあ…  
♡

っほ…  
っほ…  
っほ…  
♡



んん…  
ちゅっ…  
んん…♡

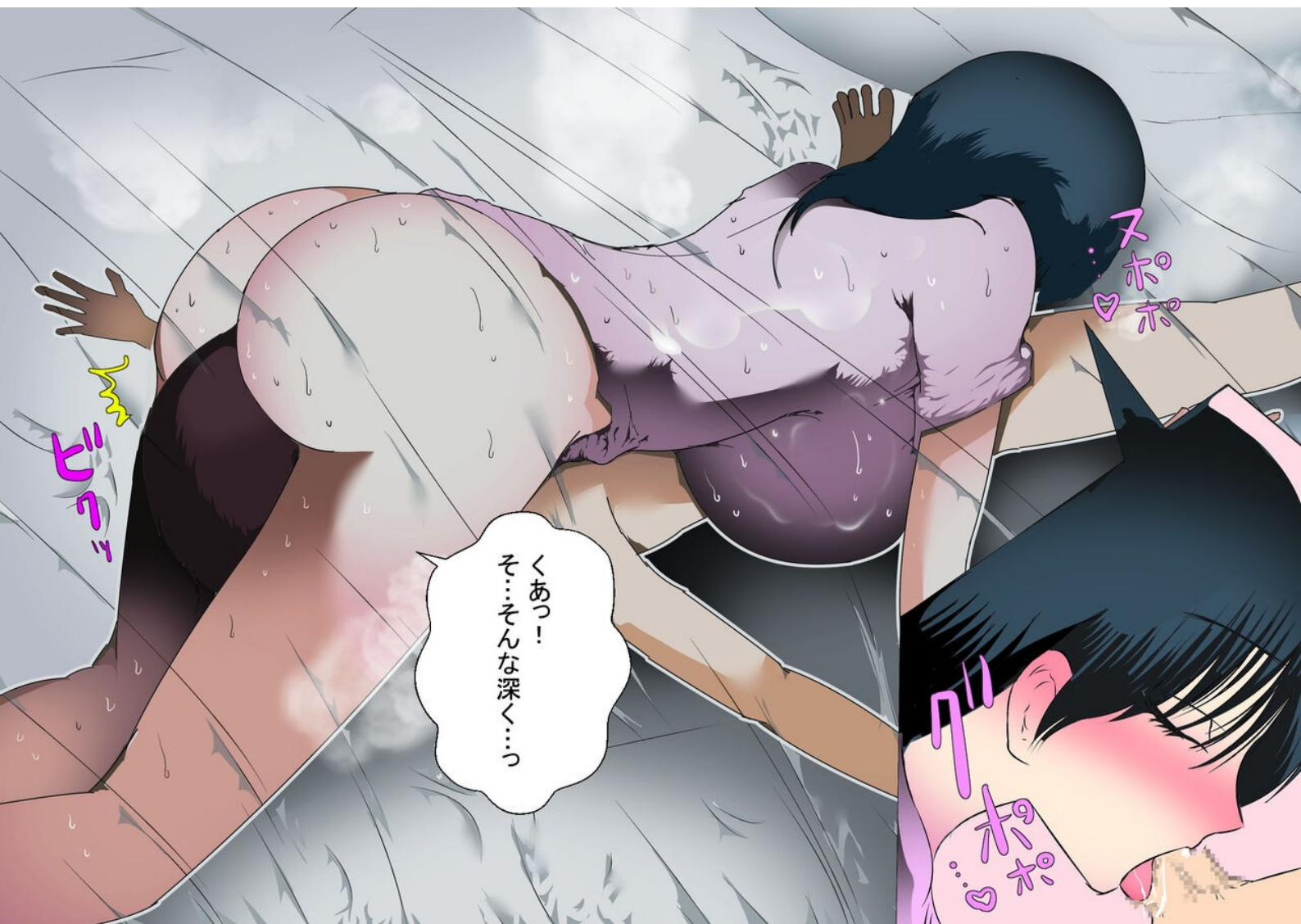
(やはりこのお姉さんも  
旅館の女将さんから  
僕の話聞いて  
やってきたに違いない…  
女性の噂の伝達力って  
本当に怖い…っ)

まわまわ…♡

フッ…♡  
フッ…♡  
フッ…♡

フッ…

んん…  
ちゅっ…  
んん…♡



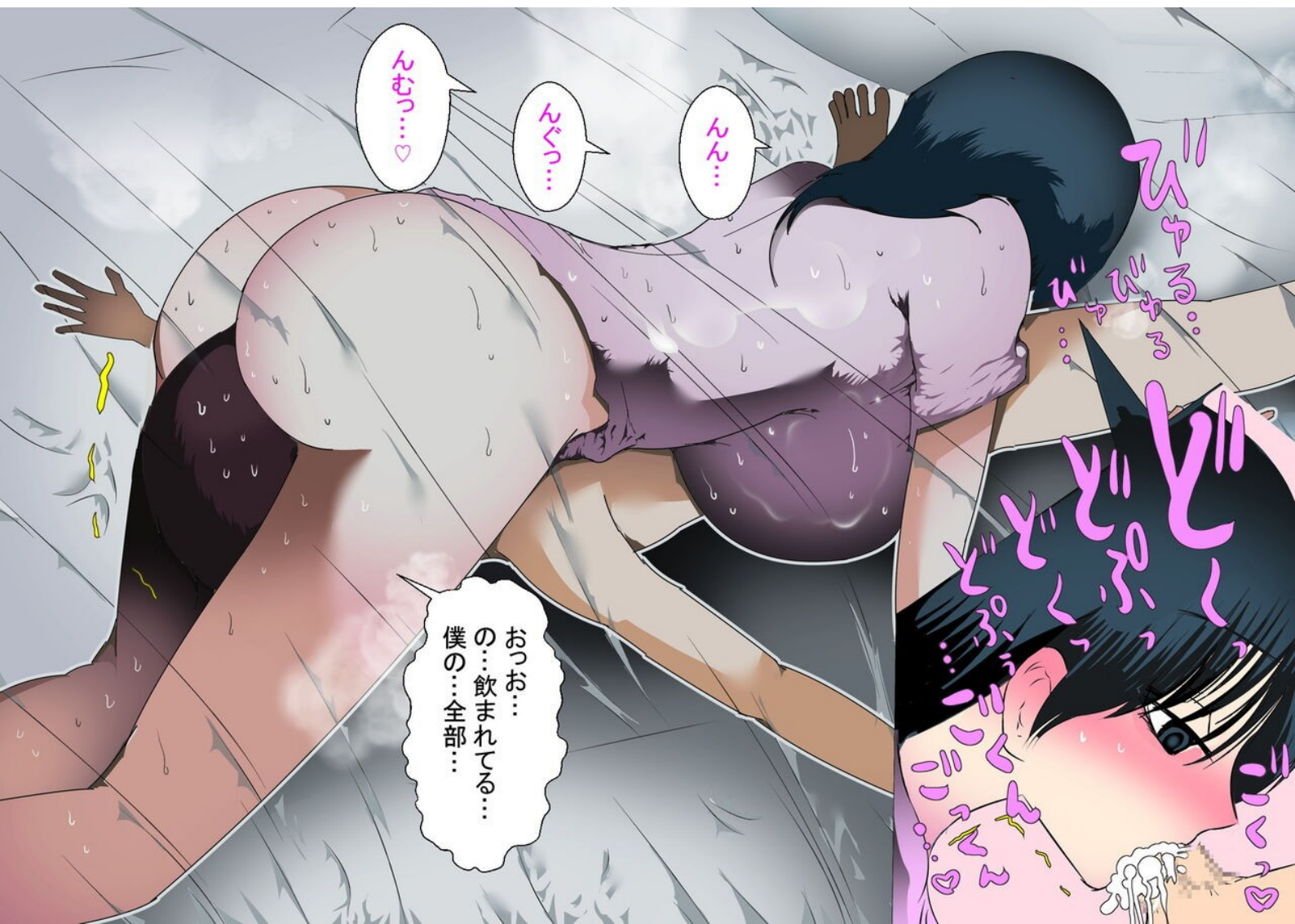




(あああ…  
匂いの逃げ場が  
なくて…  
頭がクラクラしてきた…

その上…っ  
こ…こんな  
しゃぶられたら…  
もう…っ)





んむっ...♡


んぐっ...

んん...

おっお...  
の...飲まれてる...  
僕の...全部...

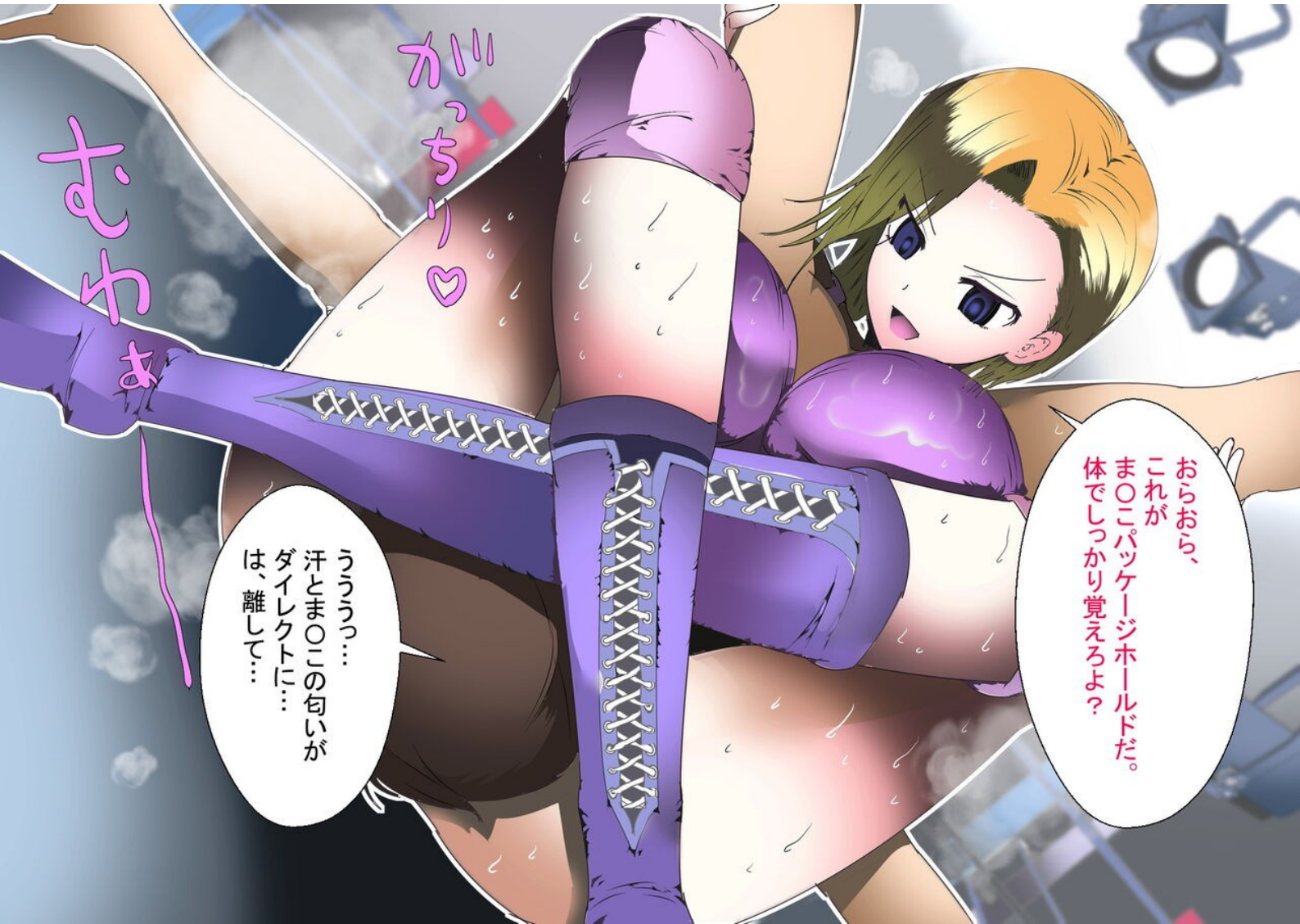
びゅびゅびゅ...  
どどどどど...  
びゅびゅびゅ...  
どどどどど...





旅行から帰ったあとも  
僕は自分のこの歪んでしまった  
精神を戻そうと  
色々なことを試みた…  
今度は格闘技のジムに  
通ってみようなどと…

しかし…古ぼけた案内板の  
ジムに入ってみると  
そこは女子レスラーの道場に  
改装されていたらしく…  
僕はまたしても、  
お姉さんの匂いを間近で嗅ぐ  
こととなったのだ。



おらおら、  
これが  
ま〇こパッケージジールドだ。  
体でしっかり覚えるよ？

うんうん…  
汗とま〇この匂いが  
ダイレクトに…  
は、離して…

かっ  
ちり♡

ま  
ま

おめーのことは  
この街の  
働く女性用SSのグループで  
共有されてんだよ…

匂い好きの  
変態学生ってなあ

れろ

アタシたちの  
ストレス解消に  
体を動かした後の匂いを  
ばっちり浴びてもらおうぜ♡

か  
し  
っ  
っ  
っ

(ど…道理で…  
旅行先では偶然としても…  
住んでる街では  
あまりにも女性に襲われると  
思った…っ)

ん





んん...♡

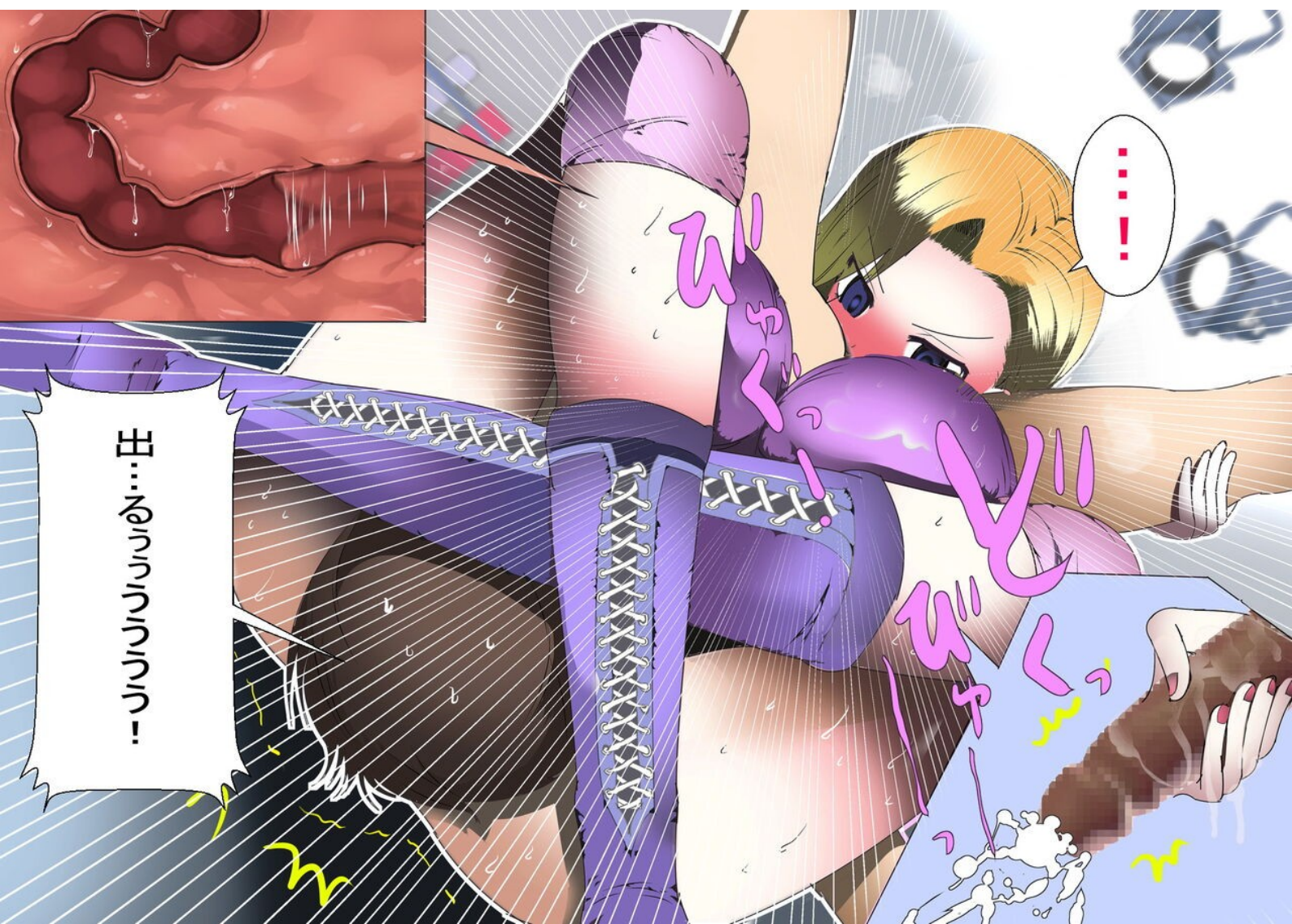
クチュツ

れろ♡  
れろ♡

しゅっ♡  
しゅっ♡  
しゅっ♡

うっ...  
ひゃあああああっ!





---ウジュウジュン...!!

!!!




なんだよ…♡  
アナル舐められながら  
しごかれたぐらいで…

でもお前のアナルは  
あんまり臭わねえな…

アタシはさっき  
用を足したばかり  
だから…どうだ？

じじじ…臭い…  
臭います…

カ…カ…カ…



こんな日々が続いた後：  
急に僕の家へ婦警さんが  
2人押しかけてきた。  
なんと僕に  
変態罪の疑いがあり  
逮捕するという。

そんな馬鹿な…  
僕は何もしていない！  
変態なのは  
街のお姉さんたちの方じゃないか。  
しかし話は署で聞くと「われ、  
狭いミニバトに載せられた。  
すると  
車の中は脱ぎたての下着  
だらけだった…」



は〜い  
変態おち〇ぽは  
タイホです♡

脱ぎたての  
私たちのムレムレパンティで  
こすっただげるね♡  
車内も下着で一杯だよ♡

モフ♡

ムフマ...

遠慮せずワキの匂いも  
嗅いでみる♡  
おまけに手錠もハメてやるぞ♡  
パンティが  
絶対外れないようにな♡

ま...窓  
開けてください...  
ああああ...っ  
匂いが籠って...

むわっ♡

ぐわっ♡

ぬわっ♡

ぬちゃっ♡

むわっ♡

ぐわっ♡

ぬわっ♡







認めちゃお♡  
自分が  
匂い好きで  
下着好きの変態だって  
認めちゃいなさい♡

ち○ぽゲロしろ♡  
観念してゲロするんだ♡

パンティ「すれるう…  
も…もづ…」

すちゃっ  
ぬ  
すちゃっ  
ぬ  
すちゃっ  
ぬ

どっどっ  
どっどっ  
すちゃっ  
ぬ  
すちゃっ  
ぬ





あららあ…  
私たちのパンティを  
こんなにくちよぐちよに  
して…いけない子♡

このままこれを履いて  
私たちは  
勤務するんだが…  
妊娠したらどうするんだ？  
また罪が増えるぞ♡

「め…

「めんなさ…

にちや  
ねと  
くちよぐちよ  
じろ



結局、その後…  
警察からは  
証拠不十分で釈放されたが  
僕は…  
婦警さんたちの  
匂い責めに、心の底で  
歓喜している自分に  
気付いていた…  
こんな性癖を抱えて  
どうすればいいのだろう…

思い悩んだ末に、  
話を聞いてもらおうと  
小さな教会に行き、  
懺悔室に入った。  
しかしそこにいた美しいシスターは  
室内を使用済みの  
下着だらけにして  
換えていない靴下を履いたまま  
僕に足を向けたのだ…



この懺悔室は  
今や  
私の下着の匂いで  
満ちています...

私の足の匂いで  
あなたの心を浄化しつつ  
おスマタして  
差し上げます...  
悔い改めてください♡

そ...そんな...  
まさか貴方が  
こんな...

むわ

ムワ...

むわ  
モワ



あなたは…  
悩まれているようですが…  
もっと…ご自分に素直に  
なられてはいかがでしょうか？

ほら…  
足の匂いで  
こんなに硬くなって  
らっしゃる…

ムムム

! ?



...お尻の穴に♡

これなら...  
すぐ入ります...♡

!?

じゅるるる♡



うぐうぐう  
うぐうぐう……!!

あっ♡  
あっ♡  
いいですわ…♡  
そのまま動いてください♡

私のお尻の中で  
おち〇ほ  
暴れています♡



うわあああああつ！  
こんなの…  
もう出ちやうよお！

すっすっ  
ちゅぐぐ  
ぬっ

すっ  
ほっ  
ちゅ

私は尻セックス好きの  
変態女だということ  
自分で受け入れて  
います…

あなたも…  
匂い好きの変態という  
ことを受け入れて…  
そのまま私の  
お尻の中に出してください♡







ああ…あ…

どろ

ぐわ  
ぐわ  
ぬちあ

うふふ…私のお尻の中に  
あなたのオタマジャクシが  
いっぱい蠢いてますよ♡

相手である私が  
誘っているのですから…  
もっと「自分のことを  
許してあげてくださいね♡



シスターのいう通り…  
僕は自分を責めすぎていたの  
かもしれない。  
女性のほうから誘ってくれて  
いるんだ…  
女性の匂いが好きだということ  
認め、この幸運を味わうべきだ。

夏休みに僕は実家に帰った。  
幼馴染の農家の爆乳お姉さんに  
強烈なワキ汗と  
土の匂いを浴びせられたが、  
それがとても懐かしく、  
素直に嬉しかった。



暑い日の  
おいのワキの匂いは  
どうだ？

泥だらけになって働いた  
汗の匂いたっぷり嗅がせながら  
パイズリしてけるよ♡

(このツンとした匂い…  
脳みそがおかしく  
なってしまうぞうだ…)

むわあ  
♡

むわあ  
♡

ぬるっ♡

むわあ♡  
にやる♡



しかしよく帰ってきたな  
おいの匂いが懐かしく  
なっだが？

ぜ…全然そんな事…っ  
（うう…く…臭い…っ）

あ…あ…

ぬ…ん…♡

た…た…♡  
た…た…♡

に…ん…









僕は...  
僕は...

おいのおっぱい  
めぢやぐぢやだあ...

相変わらず  
めんけ子だ...  
これからずっと  
おいの匂い  
嗅がせであげるがらな♡

にちやあ...  
どろお...  
しちや...  
ぶんや...  
どろ...  
どろ...



(こんな匂い  
昔から  
嗅がされてたら  
性癖歪むよなあ…)

女の人の  
特定箇所の  
キツツイ匂い  
って…

サイツコッ  
だな…って  
思いまひたあ  
…

END